

ごごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌

88号



座談会「SDGsって、なんだ？」
田中 朋清氏 × 高野 拓樹氏

「再生の喜び」と「ものを大切に作る心」
京都 SKY おもちゃ病院

京・資源めぐるプランが始動！
京都市環境政策局

なごみ日和「京都セルロイド」

もっぺん物語「愛和工芸」

新しい循環の形「リユースドライブ」
松陽学区地域ごみ減量推進会議

表紙デザイン
嵯峨美術大学 デザイン学科 3年
稲堂丸 怜菜

ごみにまつわるこの数字なあに？

食品ロスに関わる 40%

答えは web へ！

* トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」
をご覧ください。



京都市ごみ減量推進会議

特集

SDGsって、なんだ？ ～持続可能な未来のかたちを求めて～



ともきよ
田中 朋清氏

石清水八幡宮権宮司
京都大学 こころの未来研究センター共同研究員
日本国際連合協会理事

ひろき
高野 拓樹氏

京都光華女子大学 学長特別補佐 教授
京都大学 学際融合教育研究推進センター 特任教授

今話題の「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」。ポストコロナを生き抜く指針としても弁えておけるよう、有識者のお二人に登場いただきました。

SDGsとは

持続可能な開発目標・Sustainable Development Goalsのこと。2015年9月、国連サミットにてあるべき「未来のかたち」として196カ国の合意で採択された世界的な約束事。17の目標と169のゴールが設定され、2030年までに富の格差や気候変動などの課題を解決し、地球を明日へ繋ごうと提唱する。「誰ひとり取り残さない」を理念としている。

なぜ、SDGsなのでしょう？

田中：世界平和、人々の幸福という観点で現代社会を見渡すと、克服しなければならない課題がいくつも横たわっています。まず、第一に格差を挙げたい。スーパーリッチと呼ばれる大富豪たちの資産の合計は、世界の人口のおよそ6割にあたる46億人の資産の合計を上回っている*現実があります。目標1の貧困はもちろん、現状を踏まえ17の目標を設定することで、未来に向け、持続可能な社会の実現を示したのです。

高野：SDGsの前にMDGs（ミレニアム開発目標・Millennium Development Goals）と呼ばれる目標が、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択されました。2015年までの達成目標

として貧困撲滅運動による成果が報告されたのですが、富裕層と貧困層、都市部と農村部などの格差問題、弱者が置き去りにされている状況が浮き彫りになり、SDGsとして形になったようですね。



田中朋清氏

経済開発も組み込まれていますね

田中：SDGsのDevelopmentという言葉が示す通り、目標8には、経済成長が掲げられています。社会的課題の解決に取り組む企業活動が評価されているのです。ESG投資という言葉をご存知でしょうか。環境(Environment)、社会(Society)、企業統治(Governance)の略ですが、3つの指針に配慮し、実質的に事業を進める企業が各界か

ら支持を得て、資金を集めています。

これは、もともと京都の商売人の基本でした。自分の利益のためではなく、人様のために社会のために貢献するという姿勢を礎にして、脈々と商売を続けてきたのです。

高野：SDGs市場は、巨大な経済成長を促します。ESG投資は資金調達的手段となり、一人ひとりの判断が経済を牽引する成果をもたらすのですね。

*2019年時点、貧困と不正の根絶を目指す団体「オックスファム」の報告書による。

SDGsが掲げる17の目標



日本でSDGsは、 どう取り込んでいけばいいのでしょうか

田中：SDGsの達成率を見ると、現時点で日本は高くないのです。ノルウェー、スウェーデンなど、取組が進む北欧諸国に比べると国民の関心が低く、広がりやを阻んでいます。

しかし、世界の人々から日本文化は高く評価されています。アニメ、漫画、歌舞伎などの芸能をはじめ、受け継がれてきた文化を生かすことでSDGsは広がると信じます。また、世界から期待もされています。

高野：SDGsの中で、目標1から目標5までが重要と考えます。日本では、例えばチョコレート扱うDari K（ダリケー）の事業展開は模範と言えるでしょう。カカオの一

「誰ひとり取り残さない」という考えを 私たちが実行するとしたら…

田中：SDGsの達成に向け、日本は重要な役割を果たすことができると考えます。日本は時代の変化の中で本質を変えずに文化を受け継いできました。「もったいない」「おかげさま」という昔から使われてきた言葉には、先祖代々、受け継がれてきた知恵が息づいています。自然や人、地球を取り巻く万物を大切に思う心が宿っています。これこそが「誰ひとり取り残さない」というメッセージに通じるのではないですか。

SDGsの実現には社会的包摂を叶える仕組みづくりが必要です。私利私欲ではなく「社会のために」「人様のために」と行動すること。そのためには一人ひとりの人生の変革が重要です。つまり「学び」が何より大切です。

高野：極端かもしれませんが、SDGsって「祈りの思想」だと思うのです。明日への道標だとも言えるのでしょうか。行く道があると励みになります。

私が属する光華女子学園では、2010年から「KOKAエ

ポストコロナに向けて、 SDGsの視点からご意見をいただけますか？

田中：日本は大量生産・大量消費という高度経済成長期を経て、いろいろな課題が出てきた中で、SDGsは幸福度という価値観を示しました。

幸福な社会のかたちとしては持続可能な社会が考えられます。各地域で完結する仕組みが重要で、例えば小型発電によるエネルギーの確保、食糧の自給率の向上、「捨てるものがない、ごみを出さない」暮らしを構築し、人と人が支え合う包摂的な社会を目指すべきでしょう。

大産地であるインドネシアのスラウェシ島で栽培されている実を発酵させ、日本に持ち込み製品化し、店舗やSNSを通して消費者に届けています。樹木の植栽を行い、森林保護と作物栽培を両立させ、消費者につなぐシステムです。現地では農園指導をし、児童労働をしないことなど、生産者を守る約束事を設け、現地の人々を育てながら自立支援を行なっています。フェアトレードよりさらに進んだ事業です。



SDGsを象徴するカラーホイール

コアワード」という学園行事を幼稚園から大学まで学園を挙げて行なっています。エコをテーマに、アイデアや作文、標語・短歌、ポスター、作品など5つの部門への応募を呼びかけ、優れた内容を表彰する事業です。生徒や家族はもちろん、卒業生、学園と関わりのある事業者も加わり、世代や立場を越え「エコ」を共有しあっています。2020年は1,675点の応募がありました。SDGsの17番目の目標はパートナーシップです。その理念を大切に、今後は一工夫を加えて展開したいものです。



高野拓樹氏

高野：コロナ禍において、我々は皮肉なことに、これまでの生活の無駄に気づかされました。SDGsの観点で考えれば、コロナによって後退した分野も前進した分野もあると思います。いずれにしても、SDGsはポストコロナ時代における我々のライフスタイルを見直す機会となったのですね。

田中：京都という地に培われた伝統文化は、SDGsに謳われている理念が脈打っています。コロナを乗り越えるためにも、また未来を再構築するためにも、今こそ地元・足元に在る豊かな知恵を共に学び、世界に向けて発信していきましょう。



森田知都子
(進行・執筆/2021年4月8日座談会より)



取材日に診療に当たったドクター陣。後列左が泉谷隆信さん

おもちゃの修理を通して伝えたい

「再生の喜び」と「ものを大切にする心」

スカイ
京都SKYおもちゃ病院

「壊れたおもちゃを治す」。こう書くと漢字が間違っていると指摘を受けるだろう。しかし、単なるおもちゃの修理屋さんではなく、壊れたおもちゃに新たな命を吹き込み「治療する」ことに力を注ぐ人たちがいる。ボランティア団体「京都SKYおもちゃ病院」のおもちゃドクターたちだ。今年4月で12年目を迎える同団体の活動内容やそこに込められた想いについて代表の泉谷隆信さんにお話を伺った。

「定年後を有意義に」と集まった仲間設立

4月の土曜日、左京区にある葵児童館を訪ねると、深緑色のエプロンを身に付けたシニア世代の男性たちが、真剣な表情でおもちゃと向き合っていた。ドライバー片手に作業に没頭する人、おもちゃの動きを確認する人、隣の人と相談しながら故障原因を探る人…。彼らはおもちゃの修理を無償^{※1}で行うボランティア団体「京都SKYおもちゃ病院」のドクターたち。シニアの生きがいづくりを支援する京都SKYセンター主催「おもちゃドクター養成講座（以下、養成講座）」の卒業生によって2009年に発足、翌年4月に活動を開始した。3代目代表を務める泉谷隆信さんも設立メンバーの一人だ。

「『定年退職したら何をしよう』と考えていたメンバーの一人が、他府県でのおもちゃ病院の活動を知り、これなら定年後の時間を有意義に使えると考えて、SKYセンターを

通じて仲間を募集したんです。その時に集まった11人で立ち上げたのがSKYおもちゃ病院^{※2}です」と泉谷さん。葵児童館と住吉児童館（伏見区）で定期的に開院するほか、出張外来として市内の公的施設や商業施設、イベントなどで不定期に開院し子どもたちの依頼に応じている。これまで治療したおもちゃは5,703点を数え、8割以上の完治率を誇る。



真剣な表情でおもちゃに向かうドクターたち

学び、受講後も孫のおもちゃで修理実習を繰り返し技術向上に努めた。さらに、近隣のおもちゃ病院にインターンとして参加、現場の空気も体験した。それでも不安な思いを抱えてのスタートだった。

「でも、何とかなるものですよ」と泉谷さん。動かない、音が出ないと持ち込まれるおもちゃの2～3割は、電池切れや電池の液漏れなど電池関連に原因があるのだとか。「回数を重ねると“どこが悪い、どうすれば治る”という勘が働くようになります。自分の手でおもちゃを再生させたという経験の積み重ねが自信になっていきます」と泉谷さんは話す。

再生させた経験の積み重ねが自信に

おもちゃ病院では治療する人を「ドクター」と呼ぶ。現在、京都SKYおもちゃ病院には、69歳から最高齢91歳まで18名のドクターが在籍している。技術畑出身の人が多いのかと尋ねると、「いやいや、現役の調理師さんや学校の英語の元教師などいろいろです。根っからの物作りや機械いじりが好きな人の集まりと言った方がいいかもしれません。私も文系の出身なので、自分の技術で対応できるのか最初は不安でした」と当時を振り返る。養成講座でおもちゃの基礎知識と、修理の手順、道具の使い方など実技を

おもちゃを治す過程を子どもたちと共有

昨年来の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在は対面治療を避けて、預かり対応が主流となっている。だが、本来おもちゃ病院では「おもちゃの持ち主が親子で持参」することを原則としている。可能な限り、実際に使っている子どもの言葉で、故障の状態や修理が必要な箇所を伝えてもらうのが望ましいという。

子どもにとっておもちゃは宝物。「誰それを買ってもらった」「頑張ってお小遣いを貯めて買った」といった愛着のあるおもちゃは、長く大事に使いたいものだ。

「どこが悪いか、どうすれば治るかということ子どもたちと一緒に考え、治していきます。そこが“修理屋さん”とは違うところです。おもちゃを手術するために内部を開けると、子どもたちはワァ〜と声を上げて興味津々で覗き込んでくれます。そして、治している様子を目をキラキラ輝かせて見えていますよ」。そう話す泉谷さんの顔が本当に嬉しそうだ。海外製や年代もののおもちゃは部品の調達が難しく、ドクター総出で知恵を出し合い打開策を探るという。



わぁ〜動いた！目を輝かせ喜ぶ子どもたち。この笑顔が活動の原動力になっている

「手元にある部品の中から使えるものを応用して補修したり、100円ショップの商品から部品を取り出して代用することもあります。そうやって工夫し手を尽くすことで、子どもたちには壊れたおもちゃが生き返ることを知ってもらい、物づくりの楽しさや物を大切にする心を育ててほしいと思っています」。

「シニア・子ども・社会」の三方よし

この日は14時から16時30分まで開院し、プラレールの車両やラジコンカー、電池で動くぬいぐるみなど33点のおもちゃが持ち込まれ、7人のドクターが一つひとつ丁寧に診療に当たった。当日治しきれなかったおもちゃは、「入院（預かり）」となった。

元通り動くようになって戻ってきたおもちゃを手にした子どもは、「ヤッター！」と手をたたいて大喜び。治療にあたったドクターも心の中でガッツポーズをしていたに違いない。ドクターにとって何よりの楽しみは、子どもたちの喜ぶ顔と「ありがとう！」の言葉。それが活動の支えであり、原動力になっているという。

とはいえ、泉谷さんは「ありがとう」と言われることに少し気恥ずかしさもあるのだとか。

「おもちゃの修理は単なる趣味なんです。仲間と一緒に自分の趣味を楽しんでやっていて、その上、こんな笑顔とお礼の言葉をもらえるなんて。むしろ私たちのほうこそ『ありがとう』という思いです」。

2016年11月、同団体は「第10回京都府子育て支援」の地域貢献部門で表彰された。「楽しみや生きがいを感じ

てやっていることが、結果的に地域社会のお役に立てているのなら、こんなに幸せなことはありません。私たちにとっても、ここが自分の居場所になっています」。

今後の目標は、「さらに技術を磨き、修理のレベルを上げること。そして、後継者の育成ですね。おもちゃドクター養成講座の開催も予定していますので、経験など関係なく、おもちゃの修理に興味のある人や子どもが好きな人に受講していただきたいですね。もちろん、私も生涯現役でがんばりますよ」と泉谷さん。頼ってくれる子どもがいる限り、まだまだ忙しい日々が続くそうだ。



子どもたちから届いたお礼状の数々

※1 修理代は無料。部品交換を要する場合は実費
※2 2019年4月に「京都SKYおもちゃ病院」に改称

京都SKYおもちゃ病院 <https://kyoto-toyhosp.com/>

活動に興味を持った方、また今後の開院予定日については、京都SKYおもちゃ病院のホームページをご覧ください。

2030年に向け、京・資源めぐるプランが始動！ ～「食品ロス」や「プラごみ」が出ない循環型社会の実現を～

令和3年3月に策定された『京都市循環型社会推進基本計画（愛称：京・資源めぐるプラン）』。今回は、大学生がインタビューに挑戦し、食品ロスやプラスチックの削減などを目指すこのプラン達成のために、自分たちにできることは何なのかについて、環境政策局の岡本賢吾さんと福田亮さんと一緒に考えた。

もったいない！「食品ロス」を減らすためには

買い物をする時、食べ切れる量だけ買う、買い物メモを用意するなど、無駄をなくす工夫をしている人は多いだろう。「直ぐに食べるものであれば、見切り品はもちろん、ぜひ『手前取り』に協力してほしい」と岡本さん。食品棚は、消費（賞味）期限が近いものから順に並んでいるため、手前から商品を取ることで、小売店での食品ロスを減らすことができる。



飲食・宿泊施設版

食品ロスは、家庭だけでなく、小売店、飲食店などでも発生しているので、消費者とサービス事業者が協力しあって削減していきたい。飲食店では「小盛りメニュー」があるお店や、食べ残した食事を持ち帰ることができるお店など、食品ロス削減に取り組むお店「京都市食べ残しゼロ推進店舗^{*1}」が増えている。積極的に利用して、美味しく無駄なく食事を楽しもう！

2030年度目標

- 食品ロス排出量 一人一日あたり 87g (2019年度 114g)

便利なプラスチックとの付き合い方の見直しを

プラスチックは軽くて丈夫で非常に便利な素材。しかし石油が原料であるため、燃やすことで地球温暖化につながり、また川を通じて海に流れ込むことによって、海洋汚染が世界的な問題になっている。



プラスチックの利用を減らすために、私たちにできることはたくさんある。例えば、マイボトルの利用だ。京都市では、水やお茶などのペットボトル飲料の代替として利用を呼びかけており、公共施設などに給水スポット^{*2}の設置も進めている。また、レジ袋のさらなる削減も重要。日頃からマイボトル・マイバッグを忘れずに持ち歩こう！

2030年度目標

- ペットボトル排出量 一人年間45本 (2019年度 90本)
- レジ袋使用量 一人年間35枚 (2019年度 220枚)

プラスチックの分別、実はまだまだ

プラスチック製品（容器包装以外のプラスチック）を資源として回収する社会実験も始まる。この機会に分別を徹底していきたい。



さらに、プランでは、プラスチックを植物由来などの再生可能な資源を活用した素材（バイオマスプラスチックや紙）に切り替える「リニューアブル」という考え方も新たに導入。地球温暖化対策としても有効だ。

2030年度目標

- プラスチック分別実施率 60% (2019年度 46%)

多岐に渡る環境問題だが、まずは1つ「自分ごと」として行動してみよう。その先に、2030年の新しい暮らしがきっと見えてくる。

ごみ減量、そして資源循環へ

京・資源めぐるプランは、これまでの「ごみ減量」に加えて、「資源循環」がキーワードとなっている。具体的な課題は、「食品ロス」と「プラスチック」。京都市はこれらを減らすとともに循環利用することで、資源の有効活用や地球温暖化対策、海洋保全にもつなげ、持続可能な社会を目指す。この計画へのお問い合わせは、京都市環境政策局 循環型社会推進部 資源循環推進課 TEL：075-213-4930 まで

*1…京都市食品ロスゼロプロジェクト (sukkiri-kyoto.com) をご参照ください。



*2…京都ごみネット (kyoto-kogomi.net) の給水スポットマップをご参照ください。



情報誌ワーキングチーム (2021年4月19日他取材)

なごみ日和



KBS 京都 アナウンサー
うみひら なごみ
海平 和

●●第30回「京都セルロイド」●●

「セルロイド」ってご存じでしょうか？しっとりとして肌になじみやすく、深い光沢が魅力。かつて、下敷きや筆箱といった文房具、石けん箱、おもちゃなど25,000種類以上もの製品に使用され馴染み深いものだったとか。昭和初期には日本の生産が世界の4割を占めていましたが、燃えやすく取り扱いが難しい点や、石油系プラスチックの台頭で製造、消費が落ちこみ、1996年、日本国内でのセルロイド生産は全て終了しました。そんなセルロイドを使って、美しい万年筆などを生み出すセ

ルロイド職人が京都にいらっしゃいます。京都セルロイドの川上清史さん。時代の流れと共に多くの技術が失われる中、1984年に日本で発明された、美しい柄を活かす「巻き加工」の技術を編み出した職人の指導を受け、かつ独自に進化させ、オリジナルの商品を作っています。手作業が多い上、乾燥までの工程を含めると完成まで2か月。手間も時間もかかりますが、「昔のセルロイド職人が考えつかなかったような商品を生み出し魅力を伝えていきたい、伝えられる後継者も増えてほしい」と話す川上さんの照れくさそうな笑顔は、少年のようでした。

なんと！実はこのセルロイド、綿や木を原料とした天然資源でできたエコな素材なんです。手触りだけでなく環境にも優しいセルロイドを使って、京都から世界へ。川上さんの挑戦は続きます。



海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」「news フェイス」、ラジオ「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」などに出演中。

人と物と。織りなす「もっぺん」物語



第17回

愛和工芸

北区の原谷に工房を構える「愛和工芸」では、この道一筋50余年の家具職人、田中和男さんが木製注文家具や木工品の製作販売から、修理・再生まで行っている。工房内の展示場には、無垢材の一枚板テーブルや収納棚、箱物の調度等、田中さんが手がけた製品がずらり。釘を使わない伝統的な木組み技法を用い、板の割れ止めに蝶型の木片を埋め込む^{きりぎり}切り加工や、「こつとり」と呼ばれる鍵の細工など丁寧な手仕事が光る。引出しがスーッと滑るように出てくるのが何とも心地いい。



西陣織木目込みシリーズ



無垢材の風合いを生かしたチェスト

注文家具の製作を通して多くのお客様の声に添えてきた、その腕と経験を活かし修理・再生にも力を注ぐ。「新居の間取りに合わせてリメイクして」や「形見のタンスを現代風に」、さらには「解体した家の床の間の板で家具を作って」「扉の彫刻が欠けたので再生して」等々、まるで木のよろず相談所だ。「一つひとつの依頼に込められた思いがある。その思いを形にして応えたい」と田中さんは言う。一対一の“顔の見える”関係を大事にしなが、お客様の暮らしや思いに寄り添った家具を提案し続けている。

展示場には、田中さんの奥様、真由美さんが手がける「西陣織木目込みシリーズ」の小物も並び。これは家具を作る過程で出る端材と、真由美さんの趣味の木目込み人形で使う西陣織の端切れとのコラボによって生まれたもの。壁飾りや香炉台など、使い方は無限だ。和のインテリアとして海外のお客様にも人気だという。「まさに“もったいない精神”の産物です」と笑う真由美さん。温かい眼差しでものづくりと向き合う、素敵なご夫婦の姿があった。



田中和男さん、真由美さんご夫妻

▶愛和工芸 〒603-8487 京都市北区大北山原谷乾町30-16 TEL：075-464-4824

藤原幸子 (2021年4月11日取材)

新しい循環の形「リユースドライブ」

～モノが繋げる、「ありがとう」の輪～

地域女性会が前身である松陽学区地域ごみ減量推進会議。地域貢献の想いが強いメンバーが集まり、現在15名が中心となり活動している。親しみを感じてもらうために「ひまわり」という通称も持つ。朝倉会長と飯尾さんの温かく優しい雰囲気の中、楽しく取材をさせていただいた。



左側から、松陽学区地域ごみ減メンバーの飯尾貴子さん、会長の朝倉里野さん

2年前に始めたリユースドライブ

平成22年度の立ち上げ当初から続く、使用済めんばら油や資源物の回収、エコバスツアー等勉強会の主催に加えて、2年前から「リユースドライブ」への参加も開始した。リユースドライブは、「株式会社応用芸術研究所」（代表 片木孝治氏）が構築したもので、学区内の住民の家庭で眠る「使わなくなったもの」を、必要としている大学生に譲る活動。大きな特徴は、学生による欲しいものリストを見てからの出品であること。参加のきっかけは「大学生の支援ができるなら」と親心に響いたからだそう。

大学生側の要望を参考に地元住民に回収を呼びかけると、自転車・コート・ニット・冷蔵庫・ダイニングテーブルなど、初回からたくさんのモノが集まった。しかし、ほとんどが家族向けのサイズで大学生には大きすぎたり、衣服などはデザインの好みの違いからマッチングせずに残ってしまった。学生の欲しいものリストを参考にしても、「欲しいもの」と、「譲りたいもの」にギャップがあったため、学生のニーズに応えきれなかった。1回目を終えて「一人暮らしの大学生」のニーズを少し掴めた気がした。

ムリ・ムダのないシステム

2回目の実施に向けて、片木氏や学生のサポートのもとLINEの使い方も本格的に勉強した。眠っていたものの写真を撮り、大きさなども詳しく記載した。事前に写真で確認すること



リユースドライブに参加し、食器類を譲り受けた大学生

ので大学生とマッチングしやすくなった。フリーマーケットとの大きな違いは、「ムダがない」ことだ。フリマの場合、売れ残ったものはそのまま家に持ち帰らなくてはならない。その後、ごみにしてしまうこともある。しかし、このリユースドライブは、本当に欲しいものしか届かない。少ない労力で、本当に欲しいと思ってくれる人に届けることができるシステムだ。

希望のものを受け取った大学生からは、写真と手書きの感謝の手紙が届く。取材中、それらを見せながら学生との交流をとても嬉しそうに振り返ってくれた。モノが循環するだけでなく、人の輪も広がる仕組みだと思う。まさに喜び合える関係がつくれる。

前回、欲しいもののリストにないものに思わぬ反響があった。燻製機やフライヤー、電子ピアノなどに対して、「欲しい」という声があった。欲しいもののリストを起点にものを集めるのはもちろん、リスト以外で欲しいものがあれば、是非どうぞという、ご近所さんのような関係性になれるのも良い。

すぐに捨てないで！

使わなくなったから捨てるのではなく、必要としてくれる人に譲ることも選択肢のひとつかもしれない。「でも、まずは無駄なものを買わないこと」と朝倉会長は語ってくれた。買う時も使い終わってから、ものとしっかり向き合うことが大切ではないだろうか。

岸さゆり（2021年4月4日取材）

募集！

【メ切 2021年12月20日】

新コーナー

『わたしのごみ減らし術』

みなさんが日々実践している一押しのごみ減量の術を紹介する新コーナーがスタートします。

「美味しく楽チン！皮まで使った野菜の調理法」、「古着を雑巾にリメイクしてお掃除に大活躍！」などあなたが実践している術をぜひお寄せください！当会議にて選定の上、掲載させていただきます。

応募は右記の必要事項を記入の上、メール・FAXまたは当会議HPのお問合せフォームから受け付けております。

アイデアが採用された方には事務局からエコグッズをプレゼントします！（プレゼントは同一住所につき、各号1回まで）

必要事項

- ①応募者氏名★ ※記事は匿名掲載なので、応募者情報は掲載されません。
- ②電話番号★ ③メールアドレス★ ④住所★
- ⑤あなたが実践しているごみ減らしのアイデア
- ⑥その他（ご意見やご質問等何かあれば自由にご記入ください）
※採用時にプレゼントの受け取りを希望の方は必ず★の項目をご記入ください。

応募先

- ▶メール gomigen@kyoto-gomigen.jp
- ▶FAX 075-641-2971
- ▶お問合せフォーム

右のQRコードを読み取るか、当会議ウェブサイト <https://kyoto-gomigen.jp/about/13.html> を直接ご入力ください。



🔍 ごみ減

🔍 検索 で検索できます

植物油インキで印刷しています。VEGETABLE OIL INK

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！